講義名	異文化コミュニケーション				
科目区分	教養科目				
担当教員	中川　典子				
開講期・曜日・時限	前期 火曜日 ３時限		授業形態		
	2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 福祉マネジメントコース／2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 サービス心理コース／2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 スポーツ健康マネジメン／ 2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 サービスマーケティング／2014年度 サービス産業学部				
履修開始年次	１年生	単位数	2	備考	

主題と概要

異文化間コミュニケーションは、1960年代初頭のアメリカ合衆国に始まった分野である。地球規模で文化の多様性が重要視され、多種多様な文化と接触する機会が益々増える現代において必須の学問的、かつ、実践的分野である。本コースの目的は、異文化間コミュニケーションの基本概念を学び、様々な演習活動を実践することで、異文化の背景と価値観、考え方をもつ人々との共存を可能とする持続的な異文化間コミュニケーション能力を養うことである。授業は異文化間コミュニケーションの基礎理論に関する講義とグループディスカッションをはじめとする演習活動といった二つのアプローチから行う。

到達目標

本コースでは以下の能力を養うことを目標とする。

(1) 自己分析力を養い、自文化に対する客観的視野を養う。
(2) 同一文化圏内に存在する多様性も含め、文化的多様性を尊重する態度を養う。
(3)他者の意見を傾聴し、尊重することの重要性を学び、他者を理解するための態度を養う。
(4)グローバルな視点で物事を考える力を養う。
(5) 上記を踏まえ、多文化社会で生き抜くための異文化コミュニケーション能力を養う。

提出課題

毎回、授業に関する「学びと気づきの振り返りシート」を執筆、提出する。次回の授業準備のために、その他の課題を提出する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

前回の課題の「振り返りシート」の幾つかを匿名で教員が紹介し、授業内で共有する。

評価の基準

(1) 課題（９０%）
(2) 出席（１０%）　＊出席の扱いについては、第1回目の授業資料（講義連絡に掲示済）を参照のこと。

履修にあたっての注意・助言他

＊この授業は課題学修型の方法により実施します。毎回、授業開始時刻までにパワーポイント資料や必要に応じて、その他の資料を「講義連絡」に掲示します。音声つきパワーポイント資料を、パソコン、タブレット、あるいはスマホで視聴できるようにしておいてください。インターネットの接続も必要です。また、スライドはストリームで送られますので、途中で止めることができません。そのため、特定のスライドを見返したい人向けに、Pdfに変換した資料も「講義連絡」に送ります。「振り返りシート」等の課題は、必ず、資料を視聴してから取り組んでください。授業の内容に言及していないものは評価の対象にならず、ゼロ点となります。振り返りシートの執筆方法については、第2回目の授業で説明します。

教科書

.使用しない.

プリント資料及び参考文献

ハンドアウト資料およびその他の資料を講義連絡を通じて送る。
（参考文献）
・L.A.サモバー，R.E.ポーター， N.C. ジェイン（1993）西田司、他訳　・異文化コミュニケーション入門　聖文社
・八代京子ほか（1998）「異文化トレーニング」　三修社　・石井敏ほか（2001）「異文化コミュニケーションの理論」　有斐閣ブックス　・古田暁監修（2001）「異文化コミュニケーション-新・国際人への条件」　有斐閣選書　・古田暁ほか（2001）「異文化コミュニケーション・キーワード」　有斐閣双書　・・八代京子ほか（2001）「異文化コミュニケーションワークブック」　三修社　・・久米昭元、長谷川典子（2007）「ケースで学ぶ異文化コミュニケーション」　有斐閣選書

授業計画

回	授業計画
1	ガイダンス：コースの説明とミニ講義
2	コミュニケーションとは（1）
3	コミュニケーションとは（2）
4	コミュニケーションとは（3）
5	コミュニケーションとは（4）
6	文化とは（1）
7	文化とは（2）
8	文化とは（3）
9	知覚とカテゴリー化
10	マスメディアとステレオタイプ（1）
11	マスメディアとステレオタイプ（2）
12	偏見と文化摩擦（1）
13	偏見と文化摩擦（2）
14	文化的価値観（1）
15	文化的価値観（2）

＊毎回の授業内容は進捗状況により、次回に持ち越すことがある。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

○	ア：PBL（課題解決型学習）
○	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート
	エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション
	カ：実習、フィールドワーク

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：前回の授業の復習、および、その週の課題に取り組む。（約1時間）
復習：その日の授業内容を復習し、理解を深めるとともに、講義内容や授業内活動に対する振り返りシートを執筆する（約1時間）

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

前回の「振り返りシート」を紹介する際に、教員が内容についてコメントをする。授業内容、その他に関する質問は常時、メールなどで受け付ける。

実務経験の有無及び活用

備考

＊再掲しますが、音声付きパワーポイント資料を使って、課題学修型授業を実施するので、パソコンで視聴、パソコンがない場合はスマホかタブレットで視聴できるようにしておいてください。
＊インターネットにつながるPC、タブレット、あるいはスマホを準備すること。教材はパワーポイント、PDF等でRyukaPortaのl「講義連絡」に掲示します。

＊今回は、課題学修型授業ですので、課題の提出は非常に重要です。期限までに提出し、真摯に取り組んでください。規則正しく、リズムのある生活が健康維持の秘訣だ